

第2回 飯田市新文化会館整備に関する専門家会議 会議録

令和6年11月12日（火） 午後6時00分 開会

1 開 会

○教育次長秦野 それでは、定刻になりましたので始めさせていただきます。

ただいまから、第2回の飯田市新文化会館整備に関する専門家会議を開催させていただきます。よろしくお願いいたします。

本日の司会を務めさせていただきます、飯田市教育委員会事務局の教育次長でございます、秦野と申します。よろしくお願いいたします。

本日は、専門家の皆様、事務局の空間創造研究所の皆様とともにオンラインでの出席、オンラインでの会議ということになります。また、文化会館の会議室、傍聴席には報道機関の皆様もいらっしゃることをご報告をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

本日は、よろしくお願いいたします。

2 議 事

○教育次長秦野 それでは、早速ではございますが、議事に入らせていただきます。

(1) 前回会議の振り返り

○教育次長秦野 初めに、事務局から説明させていただきます。今日お配りしたニュースレターでもまとめさせていただいておりますが、前回の専門家会議で現在の状況をご説明差し上げる中で、様々なご意見ご指摘を頂きました。今回の専門家会議では、前回のご指摘やご指導を踏まえまして、事務局で資料を準備させていただきました。これから、その資料の内容を説明させていただき、質疑応答を踏まえながらご意見を賜りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それではまず初めに、前回の会議の振り返りについて、事務局から説明をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○室長筒井 新文化会館整備室長の筒井でございます。

私から、事前にお配りしたニュースレター第11号を基に、前回の振り返りをさせていた

だきたいと思います。

ニュースレターの表紙の次ページから、8月23日の専門家会議の内容を載せてあります。まず、左側のページですが、第1回の専門家会議は佐藤市長も同席させていただき、冒頭に会議の目的、役割について確認させていただきました。その後、市側、事務局から現在の状況とそれに伴う課題について共有させていただき、専門家の皆さんから意見を頂きました。

現在の状況に関して、3点報告させていただいておりますが、1点目が「建設費が急激に高騰し、先を見通せない状況になっている」ということ。

2点目が「基本構想を具現化するためには、広大な敷地が必要になる」ということ。

3点目が「リニア中央新幹線工期延長に伴い、市の長期財政見通しの見直しが必要になる」という点に関して、資料を基に説明させていただきました。

その後、専門家の皆さんからさまざまなご意見を頂き、このニュースレターの中面に例えば、「今後、検討の中では中身重視で使いやすいデザインを」ですとか、「どのように集うのか、ほかの地域の文化ホールの特徴も参考にするべき」ですとか、「運営方式まで検討をすべき」ということ。さらに「利便性とコストのバランスをいかに取るかということも考えていく必要がある」ということ。また、事務局として一緒に関わっていただいております空間創造研究所の草加さんからは、「最終的には整備の内容が敷地にどうマッチングするか」ですとか、「市民の皆さんの暮らしに貢献できる価値ある施設にといった根源的な部分を施設にどうつなげていくかも大きな課題」というご意見も頂いております。

ニュースレターの裏面に、前回の専門家会議の概要をまとめておりますけども、見出しに載せてあるように、課題が明らかになっているわけですが、「現状の課題をいかにプラスにできるか」ということと、「段階的・分散型の整備の可能性もあるのではないか」というご意見を頂いております。会議の中では、「利用者、観客、アーティスト、スタッフ、運営者など多くの方が集うということで、その集う文化ホールということでともに成長していくことが大事といった、これまで基本構想で頂いた意見をやはり具現化するために、そういったことを忘れないように整備することが必要」というご意見ですとか、「まちの文化活動を回していく施設とするためには、既存の施設の連携や適切な活用も重要」ということ。または「ランニングコストも考えると、それに見合った規模も考えていくべき」ということもご意見をいただきまして、これまで基本構想のときには一カ所に一体で整備しようというようなことを前提に検討してきたのですが、一カ所に一体で整備するとなると2ヘクタール以上の敷地が必要であったり、移転補償費の増高など大きな課題があるため、課題解決のアイデアとして、段階的に分散してつくっていくということであれば、一体の整備でなくても実現できる

可能性があるのではないかということ、今マイナスに見える状況をいかにプラスにできるかということで、課題解決につながるアイデアをどう議論に盛り込んで、時代の潮流に対応する基本構想を実現させるかということで、ご意見を頂いたということでございます。

後ほど、本日の資料でも詳しく触れたいと思いますが、前回の振り返りとニュースレターの説明は、以上でございます。

○教育次長秦野 ただいまの前回の振り返りについて、説明をさせていただいているところがございますけれども、ご質問ですとか、内容について少し加える点等がございましたら、ご発言いただければと思いますが、いかがでございましょうか。

(発言する者なし)

○教育次長秦野 前回の振り返りにつきましては、これでまとまっているというようなことでよろしいでしょうか。

(2) 機能を分散して段階的に整備する方法の検討状況について

○教育次長秦野 続きまして、機能を分散して段階的に整備する方法の検討状況につきまして、事務局から説明させていただきます。

○室長筒井 続きまして、資料の続きからさせていただきます。

本日、ご検討いただく資料といたしまして4点用意させていただきました。

まず、資料1といたしまして、前回の専門家会議を受けて飯田市としての検討の方向性といった内容の資料でございます。先ほど振り返りでもお話いたしましたとおり、基本構想策定後に整理された現在の状況ということで、かなり大きな課題が3点ございます。

この課題の状況を認識した上で、飯田市としても検討の方向性ということで、4つほど今回資料にまとめさせていただきました。前回、専門家の皆さんからのご意見をまとめた中で、飯田市としての検討の方向性として1点目といたしますと、「創造的なアイデアで基本構想の具現化を追求する」。

2点目といたしまして、「『飯田ひろば』としての『集う』機能の実現を追求する」。

3点目といたしまして、「機能一体型の整備に加えて、機能を分散し、段階的に整備する方法を含めて検討する」。

4点目として、「実質的で利用しやすい施設づくりを追求する」。

以上の点を検討の方向性として皆さんにご提示したいと思っております。

続きまして、一旦資料の説明を先にさせていただきます。資料2、これもA4横長のものを事前にお送りしております。「一体整備と比較して、機能を分散し段階的に整備する方法

の優位点と課題」です。

これは、基本構想の視点で考える優位点・課題・課題対応と、現在の状況の視点で考える優位点・課題・課題対応ということでまとめてございます。

まず、基本構想の視点では、「市民活動」と「周辺地域への波及効果」ということで、優位点に関しましてはここに書いてございますが、分散で段階的としたところの優位点に関しましては、「分散することによって、それぞれのエリアに文化芸術活動の拠点ができ、ひろば機能の間口を広げることにつながる可能性がある」ということと、「大規模改修時には代替施設として別施設があるため、市民の文化芸術活動への影響が低減できる可能性がある」。または「利用が多い土日にも、市民の文化芸術活動が滞りなく行える」といったこと。さらには「周辺地域の波及」ということに関しましては、「人が集まる場、人がにじみ出る場が市内に複数箇所でき、各施設の周辺地域への波及が複数箇所で行われる可能性がある」といったことが優位点であります。

一方、この課題に関しましては、「各施設で運営主体が異なると情報共有や意思疎通、連携が滞り、基本構想の実現に問題を生ずる恐れがある」ということ。さらには「現文化会館と同規模施設が周辺にないために、市民の文化芸術活動を停滞させない整備が必要になる」ということ。周辺に関しましては、「各施設やエリアごとの特徴を明確にする必要がある」ということで課題がございまして。

課題対応に関しましては、ここに書いてあるとおりでございますけれども、それぞれ検討をする中で課題対応が必要ということが書いてございます。

一方で、下段の現在の状況の視点での場合でございますけれども、優位点とすれば、建設費に関しましては、「様々な状況に対応できる柔軟性を持った整備を進めることができる」ということ。また、用地確保に関しましては、「用地確保の難易度を下げることができる」ということと、「施設周辺の交通渋滞の発生リスクを低減することができる」。また、スケジュールに関しても、「他の大規模事業との調整を図りながら、計画的・段階的に整備を進めることができる」といった優位点があります。一方で、課題としましては、「分散することによって共通エリアの部分ですとか、建築費またはライフサイクルコストを抑制するための工夫が必要になる」ということと、「スケジュール的には基本計画の組み立てに工夫が必要になる」ということで、これらに関しましても課題に対応するための考え方、検討が必要ということでございます。

矢印の下に一番下段に書いてありますけれども、「機能を分散して段階的に整備する方法でも、基本構想の基本理念等を損なうことなく具現化でき、現在の状況に対応しながら整備

できるのではないか」ということで、課題を整理したものでございます。

続きまして、資料の3、細かな数字が出てきておりまして、細かくは説明いたしません、これまで基本構想のときには一体的に整備することを想定したうえでご検討いただきました。一体整備をした場合の規模想定ということで、前回の会議でもご提示しましたが、かなり大きな面積、2ヘクタールから3ヘクタール以上の敷地面積が必要といったことが明らかになってきております。これを分散整備した場合、どういった規模想定が考えられるかということで、右側にいくつかのパターンで表したものでございます。

2カ所に分散した場合のパターン1・2・3の組み合わせの場合と、さらに3カ所に分散した場合ということで、色を変えて表してありますが、現状で考えますと、飯田文化会館がこの現地にございまして、県にもホールがあり、かつては飯田市公民館にもホールが分散されてあったということで、3カ所に分散した場合、2カ所に分散した場合も考えられるということで、いくつかのパターンをお示ししたのが、この資料3です。

続きまして、資料4、こちらも横長の資料ですが、一体整備、分散整備した場合に、どのような組み合わせが考えられるかを表したものでございます。さらに、この組み合わせの特性の検討でいくつか文言を書いてございますが、それぞれのパターンによって、いくつか検討が必要となってくる事項がございます。

今後、これらのパターンをどういうふうに判断していくかが非常に大切になってくるわけですけれども、判断の視点ということで、8つほど項目をまとめています。本日はこの8つの項目、特に上2つの「基本構想の実現」と「文化振興、まちづくりへの波及効果」に関して、ご意見をいただければと思っております。判断における考慮のポイントというのが、いくつかあるという中で、特に、この「基本構想の実現」におきましては、基本理念である「みんなが集い、創り、伝える、感動の飯田ひろば」の実現が可能か否かというところが非常に大きな判断ポイントになると思っております。

同じように、この「文化振興、まちづくりへの波及効果」も非常に大切なポイントと思っておりますので、他の施設との複合化や一体的な施設整備、周辺施設との連携による効果が期待できるか否か、または施設整備をまちづくりの課題解決につなげることができるか否かというようなことが、非常に判断における考慮ポイントとして重要なものと考えております。

それ以外の要素としまして、やはり財政的なことがありますので、下に書いてあります、敷地の確保、アクセスの問題、整備費、維持管理費、施設運営リスク対応、こういったことも大切なことではありますけれども、まずは本日、専門家の皆さんにはこの上に示した2点ということで、やはりこの整備候補エリアの選定も考慮しながら、選択判断の視点とポイン

トに照らして、今後検討していくこととなりますので、整備方針と整備候補エリアを絞っていく上でも、このポイントに関しては非常に重要なものになるかなということ、本日資料としてまとめ、ご意見をお伺いしたいということでございます。

説明は以上です。

○教育次長秦野 ただいまの説明をお聞きになりまして、委員の皆様からお気づきの点等がございましたら、ご発言をいただきたいと思います。資料と説明をさせていただきましたが、今回この会議の議論の中で考え方が共通になればなと思っております。

草加さん、補足がございましたらご発言をいただければと思いますけれども、いかがでございますでしょうか。

○草加（事務局） 草加でございます。

今ご説明をいただきましたように、一つはもう建設費がかなり上がっております。これは皆さんご存じのように国際情勢ということ、それから国内の労働環境の改善ということで、建設現場、土日が4週8休で工事をやるとか、それから単価も見直して建設費が上がっております。それから、もちろん今、大阪万博ということで、かなりそちらに向けて工事が集中しているということもあって、国内需要も高いということから、そうですね、20年ぐらい前から考えると、もう4割5割ぐらいの建設費が高騰している状況にあるということ。これはもう私どももあまり想定をしておりませんでした。

それから、当然、中心市街地に施設を整備するためには、附帯する費用として土地の取得費というのがそれに上乗せされる可能性がある。この辺をどう軽減化できる方法があるかっていうことを考える上でも、分散という考え方は一つは有効ではあるだろうというふうに思います。

それから、もう一つは、私どももこれはもう全くコントロールできない話ですけども、リニア中央新幹線の工期が延長する。そのタイミングがどうかということ。それがきっと長期財政見通しということで判断をされるんだと思います。ですので、一つは経費の問題、それから着工時期の問題、この辺が今、少し当初の見込みより違ってきているということです。ただし、着工がもしかしたら遅れるというのは、いろいろと考慮する時間が確保できるということでもあるので、それは一概に悪いわけではないだろうというふうに考えております。

以上、その辺も踏まえてご議論いただければというふうに考えております。

○教育次長秦野 ありがとうございます。

引き続き資料の関係ですとか説明の内容について、ご質問ご意見等ございましたらいただきたいと思っておりますけれども。

説明に関しましては、ここで一旦終わらせていただいて、議論のほうへ入っていくというところでよろしいでしょうか。

(発言する者なし)

(3) 整備方法の検討について

○教育次長秦野 それでは、本日の本題ということになります。整備方法の検討につきまして、皆様方からご意見を賜りたいと考えております。

ただ今の説明をお聞きになりまして、資料等も見ただきまして、お考えになったことや思っていること、ご意見を出していただければというふうに思いますが、よろしく願いたします。

それでは、よろしく願いたします。

○委員 資料いろいろとご作成いただきましてありがとうございます。すごく分かりやすくなっているなと感じました。

やはりまず課題として、一体的なものがいいのか、分散がいいのかというところですが、それぞれどちらも魅力もあれば、課題もあるという状況ですので、こういった選択肢が出てきていますので、そこを詳しく調べていくときに、施設を分散させる方法にいろいろなパターンがあって、この辺りにかなり複雑さを感じております。

施設を運営していた者からすると、例えば大きなホールと大きな練習場を一体で借りられるお客様、利用者さんが多いです。ただ、大きなホールと小さなホールを一体で一括で借りるお客さんはなかなか少ないという状況もあります。そういったところをリサーチと整理をしていくと見えてくるところが多くあるのではないかと思います。その辺りも検討いただいているような資料なので、そこを詳しくというところと、もう1点、施設の管理運営している者からすると、全国には中心市街地にあるホールと郊外型のホールと、まちによって設置場所が違いますので、それぞれの利用と活動の特性といったところも今後は調査していき、どれが飯田市にフィットするのかというところも検討していく必要があるのではないかと資料を見ていて感じました。

私からは以上です。

○教育次長秦野 ありがとうございます。引き続き、お願いします。

○委員 本当に悩ましい問題がいろいろあって、なかなか難しいところですね。

施設の分散ということについて考えると、どうしても今の既存の施設が頭に浮かんで来ています。施設的に見ると県はちょっと古く、今の飯田文化会館とほぼ同じぐらいの歴史があ

るんでしょうかね。人形劇場のほうが若干新しいのではと思いますが、人形劇場のほうは割と目的を持ったホールであって、鼎のほうはかなり老朽化が進んで、この後いろいろと手を加えないと難しいのかなと思います。ただ、鼎は敷地もある程度あり、体育館や隣接する施設との共有ですか、そういう意味では非常に有効価値が高いのかなというふうにも思います。

一方、人形劇場のほうが施設的には面白いのですが、今の飯田文化会館と共存して、例えば控え室の問題だったりといったものが人形劇場だけ残ってしまうと、あの施設だけで残っていけるのかなというふうにも考えたりします。ですので、当然ながらそれも手を加えていけないといけないのかと。

もっと言ってしまえば、分散も致し方ないところなのですが、飯田のまちの規模を考えると、メインホールもサブホールもまたリハーサルというんですかね、クリエイティブな場所も含めて、全てが一体にあったほうがいいと思います。なんとなくですが、既存のホールに手を加えつつ、新しいホールをつくり、その新しいホールをどのぐらいの規模にするかですが、そこで様子を見ながら、また今後のリニアが走った後の飯田のまち、まちづくりにも大きく関わってくるとは思います、その状況を見ながら整理していくという、そういう流れになっていくのではと思います。

愛知県の長久手市というところは、比較的新しいまちで、人口もようやく6万人を超えたぐらいの規模ですが、比較的住みやすいまちということでどんどん人口が増えています。その「文化の家」というホールが面白い格好でこしらえがあって、メインのホール、キャパシティは800ぐらいなんですけれども、そこは一見するとオペラハウスのような馬蹄形の客席を持っているんですが、舞台面、それからその1階の客席の部分が全て客席をひっくり返して、平土間にすることができるという、そういう使い方ができる所なんです。小さいほうのホールもステージの大きさ、客席のサイズを若干変えることができる。

新しいホールも、例えばメインホールでも、中規模利用ができるような機能を持つ。もしくは小さいホールだけでも、リハーサル機能を持つこともできるなど、うまく機能面を充実させて、その敷地の問題であったり、当然ながらこれはお金がかかってくるので、本当に難しいんですが、将来的にはうまく機能していけばいいというものを目指しながら整備を重ねていって、ほかのホールを整理をしていく。

ちょっと長くなりますけど、ただ新しいホールができると、どうしても新しいホールにバツと集中します。利用とかイベントも多くなるんですけど。ただ、落ち着いてくると、やっぱり自分たちの住んでいるところにそういう拠点が欲しいなというのがあるのではないかなというふうにも思います。

リニアが走った後の飯田のまちがどういうふうになるかによっても、ここは大きく変わってくると思いますが、その辺りも十分に考えながら、検討していく必要があるのかなど。

以上でございます。

○教育次長秦野 ありがとうございます。

引き続きまして、ご発言をお願いしたいと思いますが。

○委員 大変分かりやすい説明ありがとうございました。まとめていただいた資料を拝見して、分散、それから段階、整備を考えていくときに手掛かりとなるような情報が、大変分かりやすくまとめられていて、参考になると思います。そういう中で分散、それから段階整備というのを考えた場合に、建設適地というものがどこにあるのかということと、それから管理運営にどれぐらいのどういう方法がいいのか、しやすいんだろうか、どれぐらい負担があるのかということは、これまでもご指摘されている課題かなと思っております。

それに加えて、資料3の中で鑑賞という機能で今メインホール・サブホール・人形劇場という大きく3つのコアとなるような施設がまとめられていますけれども、基本構想の内容を考えると、それらと同じぐらいその下にある交流促進機能と創造支援機能、これに関して基本構想の委員の皆様に関心が強かったと感じました。その辺りがいわゆるその「ひろば」というようなコンセプトといいますか、基本構想の考え方にもつながっていたんだなと思っております。

そういう視点で捉えますと、資料4の左側の組み合わせの特性検討というのから、右側の選択判断の視点というのに矢印が向いてますが、ここで非常に重要になるのは、最初のニューースレターですとか、飯田市としての検討の方向性の中でも留意されていたと思うんですけども、右側の一番上にある「基本構想の実現」という部分、これが本当にできるのかどうかということが、様々な現実的な問題と同じぐらい重要になるということなのかなと思っております。

さきほど別の委員から「メインホール・サブホール・人形劇場の組み合わせ方であるとか、それぞれの機能の与え方によっていろいろな可能性というのが考えられるのではないか」というご発言がありまして、なるほど全くそのとおりだなと感じておりました。

それと同時に、この左側の3つに加えて、先ほど資料3のところでご指摘をさせていただいた交流促進と創造支援という機能が、これらの3つの核となるメインホール・サブホール・人形劇場というのに、どういうふうに附随してくるのかという辺りが非常に重要になってくるのかなと思っております。それがどう附随してくるかということは、これまでの飯田市の皆さんが既存の施設でどのような活動を行ってきたのかという辺りも考慮しながら、決まっ

てくる内容なんだろうなと感じておりました。

ですから、今後検討を進める中で、資料4のメイン・サブ・人形劇場というものを施設で括っていますけれども、それにさらに、交流促進と創造支援という機能も表の中に見える化をしておいたほうが、検討の過程ではいいのかなと思います。

そういう中でメイン・サブ・人形劇場というのにそれらをどう組み合わせ、さらには立地によっては建設地の周囲にあるような公共空間、外部空間、そういったところも活用しながら、どういう機能を持たせ、かつそれが基本構想にあるような「ひろば」という概念をより空間的にも表現していくような方法もあるかと思しますので、基本構想の理念の実現という視点で考える場合には、交流促進、創造支援に関してこの3つの各施設と同様に検討していくことが重要かなと思っております。

私からは以上です。

○教育次長秦野 ありがとうございます。

引き続きご議論を続けていただきたいと思います。ほかの委員の方のご意見をお伺いしながら、また思ったようなことをご自由にご発言いただければと思いますけれども。

○委員 ありがとうございます。

私もお話聞きまして、この基本構想の実現というところがやはり皆さん気になる一番大事なところなんだなと感じております。一体でやるメリット、魅力もありますけれども、分散したときの魅力、そこの選択肢をちょっと今広げておきたいなという思いもありまして、一体でやりますとやはり賑わいというのは一体でできる、見えるというところもありますけれども、分散でつくった場合も利用者さんの選択肢を増やすことができるというところは、大きなメリットではないかなと思っております。分散することによってもしかしたら類似するようなサイズのものができてしまうのかもしれないんですけども、私たち運営している者からすると、施設の稼働率を「何%」、「60%だ」「80%だ」と言われることが多いですが、私たちは曜日別で稼働率を考えておりまして、土日祝日の稼働率というのはほぼほぼ100%で回っているわけで、そのときに選択肢が増えること、あとは駐車場の利用とか制約を受けることがないこともメリットなので、地域の特性プラスそういった分散のメリットというところも選択肢の中で加えていただけたらなというのと、そのことが皆さんが選択肢を持って集えるということが、創造支援とか交流促進っていったところにもかなり大きな影響を与えてくるのではないかなと思いますので、その辺り工夫をして、より使いやすいようにしていくことってというのは、一体型・分散型、どちらになっても可能ではないかなというふうに考えております。

以上です。

○教育次長秦野 ありがとうございます。

引き続きまして、ご意見を賜りたいと思っております。

○委員 一体・分散それぞれにメリット・デメリット、いろいろあるのかなと思っております。

一体にしたときに、どういうメリットがあり、分散にしたときにどういうメリット、どういうデメリットがあるかということは、管理運営等と絡めて専門家の方のいろいろなお考えをお伺いしたいと思っております。

都市への波及効果という点で捉えると、こういうホールを分散型で整備をするというのは非常に面白いなと感じております。「移動」の形態が都市の中で変わってきている中で、分散することによって、人の賑わいが施設の外ににじみ出してくるというのは、非常に魅力的だなと思っております。ただ、その場合にも当然、その施設間の距離の問題であるとか、施設の周辺の都市の状況によって、そのにじみ出しがうまく誘発されるかどうかということは変わってくるかと思いますが、非常に魅力的な方向性の一つ、選択肢の一つではあるなど。考えなければいけないことは一体型よりおそらく増えてくると思っております。

少し話が逸れるのですが、先々週ロサンゼルス・サンフランシスコに行く機会がありました。サンフランシスコでは自動運転タクシーがすでに普通に走行しているんです。日本でいういろいろなタクシー配車アプリと同じように、向こうでは「ウェイモ」という配車アプリをダウンロードして自分のクレジットカードと紐づけると、スマホを少し操作しただけで運転手の乗ってないタクシーが自分を迎えに来てくれるんです。スマホ側でドアが開けられて乗り込むと、運転席には誰もいないタクシーがサンフランシスコの非常に狭い複雑な道の中を平然と走って、指定した目的地まで連れていってくれるんです。

とにかく驚いたのは、そのタクシーの運転に人間味があるというか、まるで機械感がない。我々が運転するときちょっとした動きをしたいといったことが非常に的確に反映されていて、なおかつ運転の上手い人の運転にもなっていました。その経験自体が衝撃的だったんですけれども、飯田のまちでこれから、例えばニアができるとか、今後、もしこういうものが分散になったとしたときでも、おそらくこれが整備されるときには、そういった自動運転といったような技術もより普及をしてきている時代になるでしょうし、これが使われていく中では、なおさらそういう移動の技術というのは、日常的なものになってきているのかなというふうにも感じました。

そういうことを考えると、いわゆる従来の整備の視点、当然それは経験からいろいろ出てきたものに加えて、いわゆる今の時代の変化みたいなものを、特に段階的整備で考えていく

ということになると、計画段階からどの程度織り込んでおくのかということも、今、我々は議論していることに加えておくことは必要なんだなというのを、その自動運転タクシーに実際、本当に面白くて3回ぐらい乗ったんですけども、乗りながら感じた次第であります。

私からは以上です。

○教育次長秦野 ありがとうございます。

非常に興味深いお話をいただいたと思います。

交通機関の話というのは、私どもの地域にとっては非常に課題になっている部分もございますので、今のお話も非常に興味深くお伺いさせていただきました。

さらに、ご発言を続けさせていただければと思います。

○委員 今のお話の自動運転タクシーは、非常に興味深いというか未来を感じて夢が広がってくるお話でした。

幸いというか飯田のまちの分散で考えても、施設間の距離、そう遠くはないだろうと今想定しますが、仮にそうであったとすれば、今の委員からのお話にあったような、これからの僕らの世代だとなんとなく近未来的と思ってしまうけれども、そういうものが新しいホールができたときには、街中を小さい車がウヨウヨ動く、そういう形になるのかと。

やっぱり飯田の皆さんのこれまでの文化の育成、発展を検証されてきたのが、これまでも話が出ていますけれど、やっぱり公民館活動というのが基礎にあって、いろいろな地域でいろいろな伝統芸能だったり、いろいろなものが育まれてこれまでになってきて、それでまた市全体で取り込まれるこのニューズレターにもあるお祭りですよ、伊那谷文化芸術祭とか、人形劇フェスタもそうですし、アフィニスとか、オケ友もそうですけど、飯田の皆さんがそうやって小さいエリアだから皆さんで集まってやるお祭りが割と好きなまちだと思いますので、分散型がうまく何かのときにはみんなが真ん中に集まってくるという、そういうまちづくりができて、その核にそういう新しいホールというのが持ってくると本当面白いのかなと。「分散」というのが、少しデメリットに感じていたんですけども、面白いかなというふうに今感じ始めました。

○教育次長秦野 ありがとうございます。

確かに私どもの地域、公民館も含めてですけども、分散といいますけど、地域ごとに非常に活動が活発に行われてきたということもありますので、その結果としての人形劇だとかにもつながっているのかなと、今、委員のお話を伺いながら、改めて思い直したところでございます。

引き続きまして、お話をいただければと思います。

○委員 本日に皆様のお話がとても興味深くて、楽しませていただいているのですが。

私も今、聞いていますと、分散型というのは、この委員会に携わらせていただいた当初には全くイメージになかったことですが、様々なお話を聞いていく中で、面白いなと感じてきました。と、いいますのも、「にじみ出てくる」というお話は本当にそのものだと思っております。分散させることのメリットとして、私が魅力的に感じている部分は、2分割になれば、2つの館がそれぞれの特色を発揮することができるというところはかなり魅力的で、一つの活動というわけじゃないのですが、得意な活動を持つことができるというのは、これから活動が多様化していく中でも有効的になっていくのではないかなと思っております。

あと心配な運営面というところは、やはりかなり慎重に考えていかなくてはいけないと思うのですが、運営スタイルというのは施設、まちによって大きく異なりますので、その辺りは、いろいろなまちを調査して、何が適切なのかというところも見ていく必要があると思います。

一方で、草加さんのご専門になってくると思うのですが、やはり今は、前回もお話したと思いますが、技術がかなり進化しております。専用ホールでなくても多目的でも音楽利用と演劇利用を同時に叶えられるような技術というのも進化してきておりますので、そういったところも活用しながら、基本理念を達成できるホールを目指すのがよいのかなと考え始めております。

私からは以上です。

○教育次長秦野 ありがとうございます。

多目的ホールであっても今の技術で専門ホールに近いことができるという専門的にお話をさせていただいたというところでもあります。

引き続きまして、さらにご発言をいただければと思います。

○委員 先ほど少し長久手の事例を申し上げました。今のお話につながる感じですが、本当に技術、その技術を導入するということはそれだけコストも高くなるんでしょうけども。

ただ長久手は、客席がひっくり返るだけじゃなく、それを本当にうまく使えば、敷地面積はそう多くなくても舞台を広く使うことができたり、客席を、要するにその割合をいろいろ変えることができたり、また長久手も大きいほうのホールというのは、舞台の間口も変えることができるんです。一番小さいサイズだと確か間口が12メートルぐらいで、最大に広げるといわゆるステージの両サイド、懐の部分までを全部舞台として使って、間口20何メートルという結構大きい舞台としても使える。当然ながら客席の利用もその大規模利用、中規模利用と制限をして、空間も小さくしたり大きく取ったりというようなこともできます。

そういう舞台機構、今の飯田文化会館には、とにかくオーケストラピットっていうのがないので、オーケストラピットは絶対つくったほうがいいと思うんですけども、オーケストラピットも、客席にもなるし、舞台にもなる、もちろんもともとの目的であるオーケストラピットとしても使えるっていう、様々な使い方をすることで、舞台面の面積もいろいろと変えられる。反響板なんかのサイズも今は吊り下げだとバトン等の問題があるので、今、奥に格納するタイプというのが多いですけども、そういうことによって舞台サイズも変えるとかという、それをうまく考えていけば、もしかするとその今メインホール・サブホールと言ってるものの概念が少し変わってくるというか、本当に飯田の市民の皆さんがどういう活動、どういう機能を新しいホールに期待されるのか、そこを絞っていく何かそういう題材になってくるのかなと思ったりもします。

あとは、例えば人形劇場なんかも新しいホールができて、今の文化会館がもし閉鎖っていうことになってくると、当然その土地の再利用というか有効活用も市としては考えられるでしょうし、そうなったときにじゃあ、今の施設をそのまま使えるのか、その場所が本当にいいのかどうかというか、その先のことまでいろいろ考えなければいけないので、その辺りは我々もなかなか責任持って話ができないところなんですけれども。でも、分散を今夢を持ってまた新しい夢に向かって話をするっていうのであれば、また一つ展開が見えてきたのかなと思いました。

以上です。

○教育次長秦野 ありがとうございます。引き続きご意見を賜ればと思いますけれども。

○委員 もう既にいろいろと感じたことをコメントさせていただいた感じです。

今のお話とかを聞いても、非常にワクワクするような、本当にそういうことをやるとどんな可能性があるんだろうというようなことを考えさせられました。

一方で、いろいろなことができるがゆえに変数が増えてきて、段階的であるとかあるいは分散であるとか、非常に検討を進めていく上で、一つしっかりとした軸を持ちながら、そこにいろいろな可能性を当てはめていくというか、大変な作業になるんだろうなと思いつつ、ただその変数というのは、すなわち可能性だと、先ほどその状況をプラスに捉えるみたいなお話もあったと思うんですけども、可能性として捉えていくと何かこういう数字には現れてこないようないろいろな可能性がまたそこから開けてきて、それは新文化会館というその施設の整備だけではなくて、何か飯田市全体の文化活動というような、箱ではなくてアクティビティのほうになんか広がっていくような、夢のある話なのかなと感じました。

感想ですけども、以上です。

○教育次長秦野 今、議論を進めていただいておりますけれども、草加さん、今の議論を伺いながら、少し発言をいただけることがあれば、ご発言いただければと思います。

○草加（事務局） はい、草加です。

おっしゃったように、確かにまちに賑わいの拠点が1カ所ではなく、それが例えば3カ所と展開していくのは、この文化会館だけではないですけれども、既存の魅力的な施設、公民館施設なんかと連携をして、そういう賑わいの拠点が点ではなくて面として広がっていく可能性は期待できるだろうと思います。

ただし、同じ機能の施設を確保していこうとすると、どうしても1カ所に整備するよりは、確実に延床面積としては増えていく。管理しなければいけない床が増えていくということが一つと、それからそれぞれの施設の規模によるんですけれども、管理運営のための人材というのは1カ所よりは増えてしまう。そのことを受け入れないといけないと思います。

そうなってくると、やはり分散したときにはそれぞれの施設がもう少しコンパクトな整備の仕方というのも検討しないといけないのかなと思います。それぞれの施設が魅力的になっていくための限界点っていうのも自ずとあるだろうと思います。少なくともその両方を長期的に見ていく必要がある。

イニシャルコストは一時的ですけれども、ランニングコストは極端な話をすると50年先60年先の負担も必要になってくるのが検討すべき大きな課題として受け入れなければいけないところだろうと思いました。

以上です。

○教育次長秦野 ありがとうございます。

改めて皆様方からご意見をさらに深めればとは思いますが、ぜひお願いします。

○委員 今の草加さんのお話を伺って、やはり同じように感じます。イニシャルコストとランニングコストの視点はとても大事だと思っております。

一方で、最近はダウンサイジング的な考え方もありまして、スペックの高いものをつくらうというよりか、必要なものをつくっていかうということで、必要以上のものはもうつくらないといいますか、スペックを下げ、適切に合わせていくと考えておられるホールさんが多いように思います。

ただ、ダウンサイジングという言葉に釣られてイニシャルコスト、初期投資をカットするところにいってしまうと、今度は逆にランニングコストが増えてしまったりとか、初期投資の圧縮を狙ったがために使い方が制限されてしまって、稼働率があまり高まらないとか、市民の皆様にとって使いづらい施設になっている、そこも避けたいので、やはり何が必要なの

か、かけるところは初期投資としてしっかりとかけて、どういった初期投資をすることによってランニングコストを軽減していくことができるのかということも、施設の建設に向けては必要な考え方なんですけれども、特に分散配置ということになりますと、その辺りはもう少しシビアに見ていく必要があるのかなと感じております。

少し厳しい話ですけど、私からは以上です。

○教育次長秦野 ありがとうございます。

今、論点として経費のお話等も出ささせていただいておりますけれども、先ほどお話をさせていただいた「基本構想の実現」という部分で、改めて分散で実現することができるのかというお話についてもご意見等をいただければ、ご発言をいただきたいと思っております。

○委員 「基本理念の実現」というところで言いますと、先ほどもお話したとおりなんですけど、一体型ですと、この基本構想のイメージは一体型のイメージが多かったと思っておりますので、そういった施設になってくると思っております。分散型になったとしても、やはり特色を持ってしっかりと事業計画を立てて、狙いたい成果を狙っていくことがよりやりやすくなると思っておりますか、特色をつけやすくなると思っておりますので、私はその辺りは分散させるというのはメリットとして考えております。

例えば中心市街地のほうにあり、あと郊外にある、2つありますと、高校生、学生とかは中心市街地に集いやすくなるでしょうし、そういった視点から10代の方が集まりやすいようなレイアウトとかの空間とかをつくっていくとか、最近はホールをつくっていくときにライトプランと言いまして、どういった空間にするかっていうときにどういった明かりをそこに灯すかという、やはりくつろぎやすい明かり、勉強しやすい明かりとか、そういったところも工夫していくと、狙ったように皆さんが集って賑わっていくのをつくっていくてくれるんじゃないかな思っておりますので、やはり特色の絞り込みといったところが必要なのかなと考えております。

○教育次長秦野 ありがとうございます。

○委員 基本構想の実現という視点から見ると、アクセシビリティというこの選択判断の視点の4番目に書いてありますけど、この辺が非常に重要なポイントにもなるのかなと思っております。

特に自分で車を運転しない人たち、高校生・中学生、子どもたち、あるいは免許を持っていない人たち、そういった人たちが集まれるということに対して、一体整備、あるいは分散整備、それぞれどのように対応できるのかという辺りも非常に重要な部分かなと感じております。

例えば、分散にすることによって、特に日常的なアクティビティに貢献をするような施設

は、アクセシビリティの非常に高いところに配置をするというようなことが可能になるのであれば、基本構想の実現に貢献するようなアプローチになるかなと思います。

以上です。

○教育次長秦野 ありがとうございます。

予定終了時刻が近づいてきていますが、改めて皆様方から一言ずつまたご意見賜りたいと思っております。

続いてご発言いただけますでしょうか。

○委員 先ほどの皆様のお話を伺って、分散にしてもそれぞれの新しいホールを中心にそれ以外のところが特色を持って、それからやっぱりコストをかけないで運営できる、そういう施設にしていくということも考えていけないのかな。

極端な話をしてしまえば、新しいホールはホール管理者がいないと難しいけれども、それ以外の施設は、例えば、電気をつけたり消したりする、そのぐらいの設備だけのスペースにするとか、日常は地域の皆さんが集う、そういうそれが少し充実した感じの施設って割り切って考えるのも、後のランニングコストを下げっていく考え方になってくるのかなと思います。

新しいホールをつくる間、それからつくった後、大規模修繕のときの代替施設とかっていろいろ考えたんですけど、よくよく考えれば今の文化会館ができてそれまではいろいろと市の公民館であったり県の公民館だったりはありましたけれども、新しいホールにホールが2つもしくは別な場所も含めて3つぐらいの何か発表の場ができれば、将来的には全てをずっと同じような機能のものを残していく必要もなくなってくるのかなと今考えております。

以上です。

○教育次長秦野 ありがとうございます。

引き続きほかの委員の方からもご発言いただければと思いますが。

○委員 今回この一体型なのか分散型なのかというところ、メリット、デメリット、魅力的なところというお話がありましたけども、最後にまとめて言いますと、管理運営のところ、今のお話を聞いていて一体型ですと、例えば休館日1日を設定するのができるのかどうか。分散型にしたときには、例えば休館日をそれぞれ設定することによって、やはり休館日が週に1回あるかどうかは、管理経費はものすごく変わってまいります。もしかしたら分散配置をすれば、どちらかの施設は週休2日ぐらいいけたりすると、かなりこれからの時代、そういったこともありなのかなとも思いつつ、そのことによって維持費というのはかなり大きく変わってくると思います。

あと無人化というところも、セキュリティのことで言いますと、最近、公民館では無人化

があったりするんですね。銀行のATMみたいなもので、建物の中に誰もいなくなると自動で鍵が閉まるというような施設を利用したこともございます。ホール機能のところは、そういったわけにはなかなかいかないと思うんですけども、ゾーン区分をしっかりとすることによって、日常利用と大規模利用によって人件費というところはかなり軽減されていくのかなと思いますので、かなり施設のスペックとか仕様、特性といったところが大きくなっていく、イメージしていくことが大事なのかなというのを、改めて基本構想の実現面とかアクセシビリティとか管理運営も含めてそういったところが大事なのかなと感じました。

私からは以上です。

○教育次長秦野 ありがとうございます。

最後にお話いただければと思います。

○委員 いろいろとコメントさせていただきました。いろいろな今のお題のお話とかを聞いていても、まさに資料1の飯田市としての検討の方向性の一番上にある「創造的なアイデアで基本構想の具体化を追求する」というところが、これからのまさに検討の方向性なのかなと感じておきまして、こういったスタンスでいかにポジティブにいろんなことを捉えながら、そこに創造的なアイデアをつぎ込んでいけるかという辺りがポイントなのかなという感想を持ちました。

以上でございます。

○教育次長秦野 ありがとうございます。

最後になりますけれども、次回の会議に向けまして、草加さんから一言コメントをいただければと思います。

○草加（事務局） 草加です。

今日はありがとうございました。いろいろとお話を伺えて、次につながるんじゃないかなと思いました。

「大きくは一体整備じゃなくても、基本構想の実現ができるんじゃないか」というお話をいただいたのは、敷地選定の中で少しフレキシビリティができたんだなという気がいたしましたというのが一つ。

それから、今はメインホール・サブホール・人形劇場という核ホールを中心になんとか施設を分散するという選択をしておりますが、そうじゃない選択もあるのかなあと。無人の施設にホールがあるっていうのはなかなかリアリティがないので、そうじゃない施設というのがあるとすると、少し今回、面積分けの種類以外の選択肢があるとすると、無人とは言わないですけども、人を減らす施設ができるのかもしれないという思いもしました。

というのと、それから委員がおっしゃった話ですかね。施設に関しましては、もうすごく高機能化をしつつ、それから音楽と演劇という舞台芸術というものを両立させるようなホールの事例も増えています。先ほどご紹介いただいた長久手というのも、実は私どものお手伝いをしたホールの一つですけども、かなり特殊な施設だと我々は思っております。大ホールがフレキシブルなホールで、小ホールがスタンダードなプロセニアムっていうのはあまり事例がないんですね。そんな特殊な施設ではありますけれども、それも一つの可能性として見ることはできるんだったら、それもあるかなと思いました。

かつて「多目的ホールは無目的だ」というふうに揶揄された時代が長かったんですけども、我々は今は多機能ホールを整備していく。音楽とそれから舞台芸術に十分その機能できる多機能なホールをつくるっていうのは可能だと思っています。ただし、もちろんかつてのように落語もできなきゃいけない、歌舞伎もできなきゃいけない、それからオペラもコンサートとも言われると、それはなかなか難しい注文ですよっていう話になるんですけども、もう少し目的を絞った多機能なホールっていうのは、高機能なホールとして整備ができると今は考えております。

多目的ホールとの差別化というか違いとして、多機能なホールというのはあり得るのではないです。

以上です。

○教育次長秦野 ありがとうございます。

この今回いただきました皆様からのご意見を改めて整理しまして、次回の会議へ進めさせていただきたいと考えておりますので、皆様にはこれからもご支援ご協力をよろしくお願ひします。

本日は意見交換、ここまでにさせていただきたいと思ひます。ありがとうございます。

3 その他

○教育次長秦野 それでは、次回の会議日程でございますけれども、先ほどもお話をさせていただきましたとおり、今のご意見を踏まえまして、事務局で改めて整理させていただきまして、会議の設定をさせていただきたいと思ひます。

今回は、こういうリモートという形でございますけれども、改めて皆様方には日程を調整させていただきまして、連絡を差し上げたいと思ひますので、よろしくお願ひします。

事務局ほかに連絡ありますか。

(「なし」との声あり)

4 閉 会

○教育次長秦野 それでは、以上をもちまして、第2回の飯田市新文化会館の整備に関する専門家会議を閉会とさせていただきます。

本当に、皆様方ありがとうございました。

閉 会 午後7時15分